

日本平和大会(沖縄)報告

1995年日本平和大会参加者 半沢 暁子

古い歴史のある沖縄の地、50年前の悲しい出来事を訪ね歩く旅は、行く先々に聞く話の一つ一つに涙があふれてくる。

アブラチガマの中で、死を待つだけの毎日は、どんな思いの日々であったのだろうか。追われて追われて、たどり着いた所に安息はない。傷つき倒れて、手術も、麻酔さえも使わずに行ったそうです。その傷口からウジがわき、気がつくと思の人が息絶えていたという。

アブラチガマを出ると、青空の下にハイビスカスの赤い花、その赤さが目にまぶしい。

このガマの中で、この地の上で、何人の人々が血を流し、息絶えたのか。住民を巻き添えにして行われた沖縄戦は、日本に何をもたらしたのでしょうか。(映画「ひめゆりの塔」のシーンと重なってしかたがない。)

アメリカ軍が上陸するまでは、古い歴史の脈打つ沖縄に、色とりどりの花が咲いて、人々はのどかな日々を送っていたのでしょう。

沖縄の平和の願い届けアメリカへ! そんな思いでいっぱいでした。

たくさんの皆様のカンパにささえられて訪れた沖縄で、見たもの、聞いたこと、その十分の一でも皆様にお伝え出来るのだろうかと考えていた矢先、アメリカ軍はまたも104号線越えの実弾演習を行いました。

基地の前を通り、104号線を走り、金武町で聞いた話。そして、バスの車窓から見た山々の無惨な姿、木が枯れ、川が死に、流れる海は上陸作戦で荒らされて、サンゴが死んで・・・

「沖縄を返せ」集会ごとに涙ながらに合唱したあの歌声が、今、私の頭の中で渦巻いています。

報告集会のお知らせ

とき 12月13日(水) 7時から
ところ 土浦市民会館
報告者 半沢 暁子 氏

土浦平和の会忘年会へのお誘い

とき 12月16日(土) 5時から
ところ 焼肉の麗華(荒川沖駅西口)
かいひ 4,000円



映画「三たびの海峡」上映中

土浦ピカデリー 12月22日まで

植民地支配下、日本の炭坑に強制連行重労働をさせられた河時根。

戦後、引き裂かれた日本人妻との別れ、半世紀の苦労の後成功をおさめた河時根は日本に渡るが・・・

監督 神山征二郎 主演 三国連太郎

行事ごよみ

- 12月 8日(金) ヤドランカ平和コンサート「サラエボよ明日は」(水戸市教育会館)
- 12月 13日(水) 平和大会報告集会(土浦市民会館)
- 12月 16日(土) 土浦平和の会忘年会(焼肉の麗華)
- 1月 7日(日) 新春のつどい(百里基地)
- 1月 27日(土) 県平和委員会理事会(石岡青少年会館)